

## 第1回外部評価委員会会議録

日時：平成29年8月30日（水）

午後1時30分から午後3時30分

場所：県立農林水産総合技術支援センター大会議室

### 1 平成28年度外部評価結果の評価反映状況報告

美馬農業支援センター所長，三好農業支援センター所長，農業大学校校長から、平成28年度の評価に基づく反映状況について報告。

#### 【質疑】

##### （1）美馬農業支援センターの業務について

委員：かあちゃん野菜について、一番人気の品目は何か。

回答：販売額で一番はインゲンで、280万円から290万円くらい。  
二番目がトマトで、250万円くらい。  
三番目がナスで、130万円くらい。

委員：養鶏業者は飼料用米の増産を期待しているが、昨年度より飼料用米は増産できそうか。

回答：管内の、にし阿波で発足している飼料用米の生産技術研究会で取組みを進めているが、28年度の取扱量は368tだった。  
今年度は地域外流通があるが、美馬管内についての取扱量は263tと昨年度より落ち込んでいるが、次年度の数量増量に向けて取り組んでいきたい。

##### （2）三好農業支援センターの業務について

委員：民泊の先進地というのはどういう所を目指しているのか。

回答：三好管内で現在25件が農家民宿として認定されているが、その中で、古くから営んでいるところや、地元根付いて営んでいるところを重点的に支援し、地元民宿のレベルアップ並びにサービスの平準化する方向で考えている。

委員：農家の民泊は、徳島県産の農産物の輸出する上で効果的であると思うので、ぜひとも推進してほしい。

特に外国人に対しては、言葉の使い方を工夫して多国語に対応した文字版を作成するなどの工夫をして、外国人の受入態勢を構

築してほしい。

(3) 農業大学校の業務について

委員： 農業大学校に関しては、後ほど説明があるので、その時に併せて質問をお願いしたい。

2 普及指導業務の評価

(1) 阿南農業支援センターの活動概要及び重点課題の取組について

普及活動方針・普及指導活動の基本的な考え方（方針）、普及指導計画書の重点課題、普及指導活動体制について説明。

続いて、重点課題「次代を牽引する担い手の育成（就農誘致活動と新規就農者の定着支援）」について説明。

【質疑】

委員： 武蔵野大学からのインターンシップ生受け入れは、何がきっかけで始まったのか。また、なぜ加茂谷地区なのか。どういう学生が来るのか。

回答： 阿南市の東京支所からインターンシップの話があり、阿南市で適する場所を検討したところ、まちづくり会が加茂谷地区で発足したこともあり、選定された。

しかし、この年（平成26年）の8月、台風に伴う豪雨で中学校が2階まで浸水したり、ハウスが被害を受けたりして、農業体験のインターンシップ生を受け入れられる状況ではなかったが、技術協議会の働きかけで実現し、復興の支援をしていただいた。そのおかげで地域の方も営農意欲を失わずに済んだ。

今後10年間は契約し、受け入れを継続することになっている。

委員： インターンシップに来る大学生は農業系大学生なのか。

回答： 農業系に限らず、多種多様な学部の学生が来る。

委員： 大学生はどういう意図で来る人が多いのか。

回答： 都会の大学生なので、田舎体験が主な目的となっている。

委員： 毎年受け入れている決まった農家はいるのか。

回答： 全員が民泊している訳ではないが、役員の人にはお世話になっ

ている。5日間のうち1日は地域の人と交流する日を設けている。民泊する時間は大切にしている。

委員： 毎年行っているのであれば、地域活性化に貢献していると思うがどうか。

回答： 高齢化が進んでいる地域なので、貢献していると思う。受入農家については、大体決まった農家に受け入れてもらっており、数としては10件ほど。

委員： 主要な作物が5つくらいあるが、チンゲンサイに絞って推進していく方向で考えているのか。

回答： チンゲンサイの栽培は簡単であるということのを売りにして、推進していきたい。

まちづくり会の会長もチンゲンサイ農家ということで、地域的にも中心的な作物となっている。

委員： チンゲンサイで新規農業従事者は生活できているか。

回答： できると思う。昨年栽培を始めた方も技術を褒められていたので、問題ない。

## (2) 美波農業支援センターの活動概要及び重点課題の取組について

普及活動方針・普及指導活動の基本的な考え方（方針）、普及指導計画書の重点課題、普及指導活動体制について説明。

続いて、重点課題「『きゅうりタウン構想』の実現による施設きゅうり産地の維持・拡大」について説明。

委員： 実働期間が約8か月（冬春）のみということだが、夏は栽培せず、冬春のみの栽培体系で進めていく方向なのか。

回答： 2・3期生は夏にも収穫して通年農業をすることになっている。4期生については夏に休む方向となっている。きゅうりタウンに集まる人はいろんな考え方を持ってくるので、それに合わせた指導をしている。

委員： 移住就農が増えている状況は大変好ましいが、地元の若者がきゅうりタウンで就農するという例はないのか。

回答： 1期生にはUターンで就農した方はいた。20年前あたりから若者が2・3人しか増えておらず、活動にも限界があった。  
地元の高校生に農業体験を行ってもらおう際に、就農をしてもらおうという視点で働きかけをしている。

委員： かなり儲かっているとの話を聞くので、それを地元の若者に周知すれば、興味を示してもらえそうなので、今後ともぜひ頑張ってください。

### 3 教育研修業務の評価

#### (1) 農業大学の現状と今後の方向について

農業大学の現状、課題及び今後の方向について説明。

#### 【質疑】

委員： 就職就農する人は徳島県内での就職なのか。

回答： 9割以上は県内での就職。

委員： 新規農業者の半分くらいは農家出身なのか。

回答： 現在、1、2年生合わせて77名の内、農家出身者は35%。  
残る65%は非農家出身者。そのため、卒業後の就職先は多岐にわたる。

委員： 卒業後、林業に従事する人はいるのか。

回答： 特段、そのような生徒がいるとは聞いていない。

委員： 合格者数に対して、入学者数が少ない事例があるが、合格後に数が減ったということか。

回答： 合格者については、定員40名で40名から41名に合格通知を出している。

しかし、この時期は国立大学の2次試験の時期と重なり、国立大学に合格した人は、そちらへ入学してしまう。これらのことを受けて、来年度の入学者からは、補欠入学制度を設けて、定員を確保していくよう努める。

### 4 委員との意見交換

委員： 新規で農業をスタートするとき、資金の大半は借りて工面する

と思うが、それを踏まえても、各自でどのくらいお金を用意すればいいのか。

回答： 新規でハウスを持つと思えば、数百万円くらいはかかる。そのため、基本的には中古物件を活用し、それを移住就農者には紹介している。この方法であれば、住宅の改修費用も含めて、初期投資として半額くらいに収まる。

委員： きゅうりタウンではどうか。

回答： 1期生に関しては、先の意見と同様に空きハウスを改築し、紹介している。2期生に関しては、次世代のハウスでの技術習得に挑戦してもらっているが、補助金を最大限に活用して、10aあたり120万円を返していくような金額となっている。